

神奈川県立神奈川総合高等学校 学校運営協議会 開催結果

本校の学校運営協議会を下記のとおり開催しました。

会議名称	令和6年度 神奈川総合高等学校 第3回 学校運営協議会(書面会議)
開催日時	令和7年3月18日
開催場所	書面会議
出席者	江成 篤在子 神奈川区総務部地域振興課長 加藤 智恵 テンブル大学副学長 久保野 雅史 神奈川大学外国語学部英語英文学科教授 篠原 香織 PTA(パートナーズ)会長 能祖 將夫 桜美林大学芸術文化学群長、舞台芸術科アドバイザリーボード委員 八田 直昭 神奈川総合高等学校長
会議資料	令和6年度 学校評価報告書(実施結果)及び補足資料／令和6年度 第2回「生徒による授業評価」集計結果一覧 ／本校に関するアンケート 分析結果／神奈川県立学校のコミュニティ・スクールの手引き(令和6年2月)
協議事項	<p>(1) 学校評価報告書(実施結果)について(以下、各委員からのご意見)</p> <p>1(視点1) 教育課程 学習指導 能祖委員            ①・履修説明会の取り組みは評価できる。            ・(質問)弊学では、前学期の成績によって履修出来る上限単位数が決まるが、貴校では生徒が取ろうと思えば無制限に履修出来るのか?            ・履修科目数はカリキュラムツリーの流れや課外活動とのバランスも考慮すべき。            ②「著名な文化人や海外アーティストを講師に迎える」試みは評価できる。若い時期に様々な価値観、生き方、成功例(失敗例)に触れることは大切。「生徒の成長の実感にまで行き着いていない」とのことだが、外には現れなくても届いているのではいだろうか。成果がすぐに形として表れることは望まない方がいいように思える。            ③95.7%の満足度は大いに評価できる。</p> <p>久保野委員            ・履修説明会の資料・スライド作成を通して、教科内での合意形成が進んだことが素晴らしい。今後も継続して欲しい。            ・(質問)「学習の状況について」は、授業以外の学習活動を指していると思われるが、「協働的に課題を解決」するのには、具体的にどのような場面だったのかが知りたい。            ・「行事は学校全体で盛り上げて」は、学校への帰属意識と連動すると考えられるが、単位制の学校が構造的に持つ弱点かも知れない。</p> <p>江成委員            ・履修登録については、学校として様々な工夫をされたことで、生徒が主体的に学ぶことができていると思います。            ・文化祭は多くの生徒が積極的に参加し、楽しく有意義な行事であったことがうかがえます。課題が明確なので改善を加えてより良い行事になることを期待しています。</p> <p>加藤委員            ①そもそも全体の履修登録時間増加を目指すのであればそれを目標に入れるべきだったのではないか?科目的説明は重要だが、他の方法も考えられないか?例えば先輩による科目紹介、評判のシェアなど。            ②批判的・理論的思考力は、生徒が自ら能動的に学ぶことによって身につくので、時間がかかる。教員の取り組みが改善されたことは大きな歩み。            ③もともと一方的に与えられるのではなく、自発的に動く自由な校風に惹かれて入学した生徒が多いはずなので、その機会を引き続き多く提供し続けていただきたい。</p> <p>篠原委員            各科目、履修登録者が増えるよう工夫をされたということですが、選べる単位制だからこそ、毎日同じ時間に起きて学校に来ることの大切さやそのためにも授業をしっかりとった方がいいことを保護者にも生徒にも入学時から伝えることが大切だと感じます。二年次の前回の進路説明会では以前翠嵐高校にいられた先生から毎日学校にしっかり来られた子の方が希望の学校に進学決まっていたというお話があり、その通りだと思いましたが、その頃にはすでに履修科目数など決めてあったため、そうしたお話を聞くには少し遅かったなと感じました。三年次になると受験を見据えて授業数をあえて減らすことを一年次から計画している話をよく聞きますので少し違った視点でのアプローチがあるといいと思います。</p> <p>2(視点2) 生徒指導・支援 能祖委員            ①マニュアルが整備され、意識としても共有されていることは評価できる。その上で敢えて言うなら、対人間、対生徒の場合、マニュアルでは対応出来ないことも起こりうるだろうし、その場合はつまるところ、教員一人一人の臨機応変な「体を張った」対応にならざるを得ない、ということも共有されるといいように思う。            ②部活動が生徒が互いに「切磋琢磨」する場として機能している様子が伺えて評価できる。</p> <p>久保野委員            ・生徒それぞれに応じた居場所作りの工夫を続けていって頂きたい。</p>

## 議事録

### 江成委員

・防災対策について、近隣の学校等との連携と合わせて、自治会町内会との連携も図れると良いのではと思います。  
・部活動では、吹奏楽部の地域との連携や、放送部・演劇部の全国大会出場など成果があがっており、素晴らしいと思います。

### 加藤委員

①危機管理はつい優先順位が下がり、マニュアル整備にも時間がかかるので、一度できるとそのままになってしまいがち。せっかくできたマニュアルは、時期と方法を決めて定期的に見直しと情報共有をしていただきたい。  
②すべての部活にマネジメントチェックを行い計画的に活動できたことは注目に値する。今後は参加率、活動実績の充実にも成果が出るよう期待する。

### 篠原委員

部活動では、記載のように外部講師など新たな視点を積極的に取り入れていただけるといいと思います。

### 3(視点3) 進路指導・支援

#### 能祖委員

(質問)①高校に「インターンシップ」制度があることに驚いた。これは授業の一環(単位の対象)なのか?インターン先や利用者数を知りたい。

②取り組みを大いに評価する。舞台芸術科の目標は、そこではないことを知りつつも、もっと舞台芸術系の大学進学者が増えると嬉しいと(舞台関係者として個人的に)感じる。

#### 久保野委員

・ベネッセ等が進路指導データを作成すれば、確かに教員の負担は減るだろう。しかし、業者が作成したデータに依存しすぎたり、無批判に信頼すると、教員としての進路指導能力が育たない危険性があるのではないか。

#### 江成委員

・ICTも活用しながら生徒への情報提供を実施しているので、今後も多彩な経験ができるよう情報提供していただけるとよいと思います。

#### 加藤委員

①情報発信の効果が認められたことには大変期待が持てる。生徒向けにSNSを使用することは考えられないか?進路実績に関しては、生徒により興味を持つもらうために、卒業して間もない先輩の進路だけでなく、20~30代の中堅の活躍を共有するはどうか?

③教員への進路実績共有は是非続けて行ってほしい。

#### 篠原委員

様々な進路を希望する生徒がいるので、どこへ行けば情報を得られるのかなど引き続き発信していただきたいです。

### 4(視点4) 地域等との協働

#### 能祖委員

①評価できる取り組みである。

若者の海外離れば貴校だけのことではなく、近年の日本社会の傾向だが、これまでの試みを継続させることで少しでも歯止めがかけられることを望む。

②評価できる取り組みである。

地域コミュニティの崩壊もまた、近年の日本社会の課題である。高校がさまざまな地域施設と連携して、地域文化の一種のハブとして機能する中で生徒達の意識が変わらるような試みを望む。

#### 久保野委員

・学校が立地する神奈川区の特徴や歴史について、地元住民から学ぶ機会を増やせば、地域連携が進むのではないか。

#### 江成委員

・地域連携について、地域の自治会町内会と顔の見える関係づくりができていくとよいと思います。

#### 加藤委員

①海外パートナー校交流の希望者が減少傾向にあるのは残念な一方、World Caféの成功により、英語に対する興味や国際化への興味 자체が薄れてはいることに安心した。

②危機管理の面からも地域との結びつきは重要なことで、様々なイベント等で地域を巻き込んでいくべき。

篠原委員

同じ地区内でも他校の話を聞くと地域との関わりが色々とあるようですが、神奈川総合高校ではそういう活動や意識は薄く感じました。それがよくないとは特に思っていません。地域等との協同の課題が示されていましたが、その目的は何なのかが見えてこないと行事や様々なことに忙しい高校生にとっては負担にしかならないと感じてしまいます。

5(視点5) 学校管理 学校運営

能祖委員

①評価できる取り組みである。

②まさに「業務改善による問題点を洗い出す必要がある。業務過多や時期及び人数配置等について更なる検討が必要である」を心配する。「業務の均等な分担」について実際のところは、教員の能力・質・やる気にはばらつきがあり、能力の高い教員に仕事が集中する傾向がある。教員に余裕がなくては良い教育は出来ないし、教員のやる気に頼っているといわゆる「やる気搾取」に陥ってしまう。一朝一夕に解決できる問題ではないが、まずは問題意識を共有するところからしか始まらないと(弊学の問題としても)感じている。大いに健闘を祈りたい。

久保野委員

・PTA関連の業務は、徐々に増加していくことはあっても削減することが難しい。従来から継続していることであっても、優先順位の低いものがないか点検し、場合によっては縮小していく必要もあるのではないか。

江成委員

・ホームページは外部の方が情報を得る初めのツールなので、今後も拡充していただけるとよいと思います。

・教員の働き方改革について、ハード面はどうしても制約があると思うが、今後も継続的な工夫をお願いします。

加藤委員

①動画リニューアル、ホームページの更新などが進んだことは評価に価値する。

②やるべきことは次々と増えていくので業務のデジタル化は不可欠。また、効率が悪く、目的が不明確なまま慣例で続けている業務は、可能な限り削減する。業務改善の見直しを継続的に行い、教職員が無駄な業務に時間を取られないよう、良好な職場環境を整備し続けていただきたい。

篠原委員

オープンスクールや学校説明会などすぐに締め切ってしまうほど多くの人が来ている印象がありますが、最終的には神奈川総合高校を選択しなかった人にとって何か違っていたのでしょうか。他校のお子さんが翔鷗祭に来た際にあまり盛り上がりがない、静かな学校という印象を語っていたそうです。もう一歩入り込めば楽しいこともたくさんある学校ですが、一見するとそういう風にも見えるのかと驚きました。そういう意味では、一歩踏み込んだ魅力を引き出す広報力が大切なのかを感じました。